



「見たり、聞いたり、探ったり」No.218

通算 No.370

青木行雄

時代を見つめて

「日馬富士」と「出雲大社相模分祠」

今年も立春、春の節分祭の時が過ぎた。全国の神社等で「豆まき」の行事が行われた。節分とは季節の分かれ目を言い年に4節分がある。特に春の節分は重要視された。

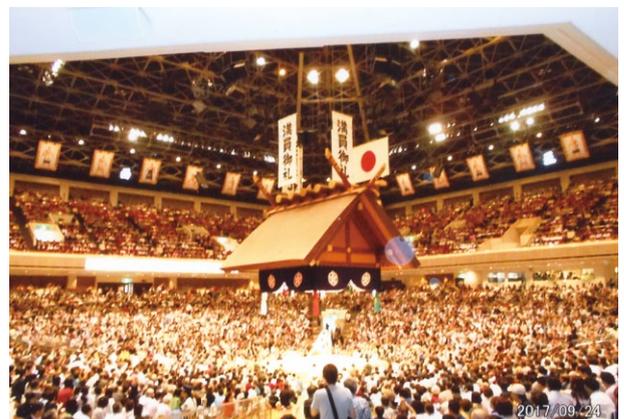
ここ近年私は毎年、神奈川県秦野市に鎮座する「出雲大社相模分祠」^{おおくにぬしのみこと}「大国主命」祭神の神社に「立春大吉」を受けに行っている。つまり豆まきに参加しているのである。

なんでこんな遠い所まで行っているかと言うと、友人の紹介だがこの出雲大社の宮司（ここでは分祠長^{ぶんしちやう}という）が大変な木材好き。プロに近い木材知識が堪能で、木材で作るものなら「たいこ」まで制作したという大変な宮司である。また「ケヤキ」の玉木で作ったという神具*「笏（しゃく）」を見せてもらったがすごい。こんなわけでお会いしているうちに親しみがわき毎年参加することになったのである。

またこの分祠長の草山清和氏は、横綱「日馬富士」の名付親でもあり、「伊勢ヶ濱部屋」の親方を始め、一門が全員毎年この大社に集合し、にぎやかな節分祭となる。そして一緒に仮設舞台より豆まきが出来るのである。

平成30年、今年の節分祭には、残念なことに「日馬富士」の引退事件がおこり、会えないと思っていたら、草山分祠長の特別なご配慮で来ることになったのである。そして平常通り舞台の上から、一緒に豆まきが出来たが、これが最後の同席だと思う。3～4年は連続でお会いしたが、大変やさしい方で、サインや話も気軽に応じ、小さな赤ちゃんまでも抱っこしては写真を撮っていた。大変残念に思う。本人はもちろん「モンゴル人」ではあるが、モンゴルにいた時間より、日本で生活した時間の方がはるかに長くなった今、日本人の心をわきまえて、日本に慣れて、相撲人としての努力が顕著にみられた。土俵

*笏（しゃく）東帯の時右手に持つ細長い薄板



※両国国技館の満員御礼の風景



※日馬富士の優勝した2017年の9月24日の千秋楽

上で制限時間いっぱいになった時、前向きに進行する迫力の姿はもう見られないのが誠に残念である。

日馬富士のプロフィール

本名 ダワーニャミーン・ビャンバドルジ

生年月日 1984年(昭和59年)4月14日

出身地 モンゴル・ゴビアルタイ

身長 186cm

体重 137kg

部屋 安治川部屋／伊勢ヶ濱部屋

ウランバートル市で生まれ育った日馬富士は、安治川親方がモンゴルで開催した相撲大会に出場し、その後、前記の草山分祠長も参加してモンゴルよりスカウトし、日本の角界入りを果たした。スカウトされた翌年の2001年(平成13年)には安馬^{しこな}の四股名で土俵入りした。それと同時に序の口優勝も果たしたという。

相撲界ではかなり小柄で軽量である日馬富士だが、同じく小柄であった現・貴乃花親方などの取り組みを研究し、みるみるうちに実力を伸ばしていったのである。その後は三段目優勝、十両優勝と順調に昇進を果して行った。

2012年(平成24年)には2場所連続優勝で横綱昇進が決定した。2場所連続優勝での横綱昇進は憧れの現・貴乃花親方に並ぶ快挙だったのである。

横綱昇進以降、5年間その地位を守り続けていた日馬富士がこの度“引退”にまで追い込まれてしまった。誠に残念である。

内容をちょっと説明すると、日馬富士はかつての憧れの存在であった貴乃花親方の貴乃花部屋所属力士・貴ノ岩関に対し、暴行していたことがわかり、事態は深刻になった。そして角界から引退勧告かと事態は不利な状況の中で、日馬富士から“引退”表明をしたのである。

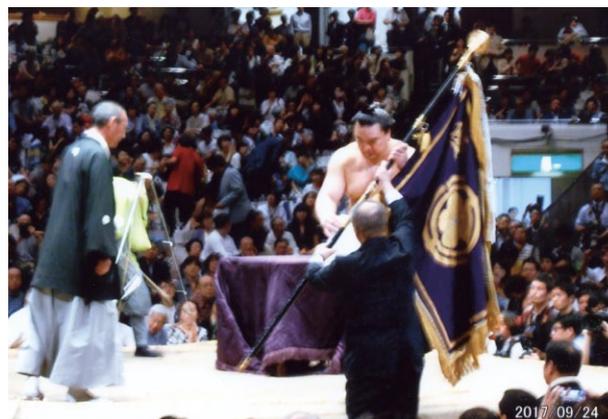
2017年(平成29年)11月29日、記者会見で、貴ノ岩にけがを負わせたことの責任を取って引退すると述べ謝罪した。貴ノ岩の礼儀がなっていないので正そうと思って叱ったことが行き過ぎだという。

2017年11月29日、日本相撲協会に引退届を提出し、受理されたのである。

そしてこの節分の日、2018年(平成30年)2月3日ここ「出雲大社・相撲分詞」にて会うことが出来たが、今年9月30日、両国国技館において最後の「引退披露」があるという。これを最後にお会いすることはないと思う。今回の節分祭は思い出に残る日馬富士参加の最後の豆まきとなった。本当に残念で仕方



※日馬富士の優勝杯を受けるところ



※日馬富士優勝旗の受賞風景

がない。

国内でも「出雲大社」と言えば知らない人はいないぐらい有名な大社だが、参拝に行くには遠く、参拝された方は少ないかも知れない。

この「出雲大社相撲分祠」は1888年(明治21年)に出雲大社の神様を分霊された分院として神奈川県秦野の渋沢峠に祀られ、1975年(昭和50年)に現在地へ移り、1991年(平成3年)に分祠へ昇格したと言う。

出雲大社は、縁結びのご利益と強いパワースポットとして知られている。鳥根県へは遠すぎて簡単に参拝が難しい……という方々に気軽に参拝して欲しいと全国に分祠が作られた。

この出雲大社には他の神社と異なったことが数々ある。まず、神前でお参りする手打ちが、一般では「二礼二拍手一礼」が作法とされているが、出雲大社では通常の参拝は「二礼四拍手一礼」である。

注連縄(神前前の軒下に横に連なる縄)も、多くの神社では右から左へ縄を廻りますが、出雲大社では左から右である。これは、一般的には神様に向かって右が上位とされ左が下位とされていることから右から始めているというが、出雲大社では逆に左が上位とされていることから注連縄も逆になっているという。



※出雲大社相撲分祠の鳥居



※節分の日の日馬富士の様子



※大社造の神殿



※日馬富士がつけていたまわし



※最初は力士や親方、分祠長の豆まきから始まった



※同行した友人、日馬富士と4ショット



※2回目より我々も参加して一緒に豆まきをした



※分祠長と写す。4ショット

大社造の建物も、出雲に代表される神社建築様式の「大社造」である。大社造は、本を開いて伏せたような形である「切妻」の屋根の建物で、三角の面が正面となる「妻入り」と呼ばれる形式である。

この出雲大社相撲分祠に出雲記念館がある。披露宴なども出来るこの記念館には横綱の使用したしめ綱などの展示や写真などもあって相撲好きの人にはうれしい。

ここ相撲分祠の草山分祠長は大変な努力家で地元で溶け込んで町の為がんばっている。この秦野に移転した当時は、2,500坪程の神社敷地だったが現在は7,500坪にも広くなり、山には植林や良い環境をつくる努力が実って、分祠長の評判も大変良かった。日馬富士は誠に残念だが出雲大社の節分祭が増々繁栄することを期待したい。

平成30年2月18日 記